誰もが自分らしく 地域で暮らしていくために

つどいぷらす

絵：玉堤つどいの家・中里裕司さん「太い幹は法人つどいの長い歴史を表現している」との事。PCにて作成。

特集

防災を考える
障害者と防災への取り組み

2025 AUTUMN

https://tsudoi.tokyo

発行：特定非営利活動法人つどい ｜ 法人広報誌 通算23号 2025年10月発行 ｜ お問い合わせ先：法人事務局 070-1392-9524

近況報告

「つどい 」のさいきん

東北沢つどいの家（生活介護）

暑い日が続いた今年の夏ですが、皆で風鈴の音で少しでも涼しく感じようと、暑気払い行事にて、紙コップや鈴を使った各自オリジナルの風鈴を作りました。この風鈴、現在も職員室内で、空調の風に吹かれて、ゆらゆら揺れております。

玉堤つどいの家（生活介護）

アート活動で新聞紙を利用しエコバッグを作りました。利用者様が新聞紙から好きな絵柄を選び、再利用によってバッグに生まれ変わりました。森林資源保護や廃棄物削減に微力ながら貢献できたのではないでしょうか

なかまっち（自立体験ホーム）

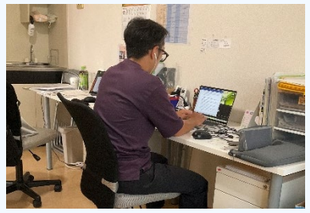
7月19日（土）にまどカフェ「みんなで自立について考えよう」を開催しました。自立体験室の卒業生と現在利用している方にご参加いただき、自立について考え交流する機会になりました。今後も交流の機会や地域との繋がりの時間を持てたらと思っています。

グループホームきぬた
（重度身体障害者グループホーム）

赤い羽根共同募金の分配金を活用して洗濯機を２台入れ替えました。以前のものは７kgでしたが、新しいものは９kgになり、シーツやタオルケットなど大きなものも一緒に洗えるようになりました。

ぽーとたまがわ・なかまっち相談室
（地域障害者相談支援センター）

今年も6/16～9/30の間、世田谷区内のお休み処をぽーとでも開設しています。若い方からご年配の方まで様々な方にご利用頂いており、そこから支援につながった方もいます。



法人つどい事務局

働きやすい職場につながるように、法人全体の業務効率やIT機器への対応能力向上にむけて、国や東京都が実施しているDX化推進事業の助成金等を申請しています。

理事長便り

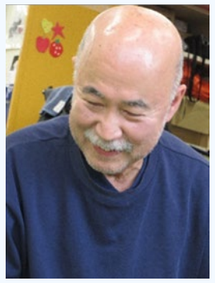
障害当事者と防災

いつやって来るか判らない様々な災害に対して何を準備すれば良いのか、基本的な準備はどこの事業所でもしていると思いますが、それを超える状況が起こり得ることを考えると更に範囲を広げた発想と準備が必要だと思います。

日頃の備えと想定、そして練習の繰り返しの中で当事者本人と支援者が発災に対する心構えを作っておくこと、脱出避難の経路をイメージしておくこと、そして大掛かりな避難訓練だけでなく、日常の小さな場面でも安全確保の意識をもって行動することの積み重ねがいざという時に役立つと思います。災害の規模、避難経路の遮断など実際には予想外のことが次々に起こると考えると、プランBの準備も欠かせないでしょう。

また防災についても、計画に当事者の声を反映させることを忘れてはなりません。起こり得る災害の説明から始めて、当事者本人の考え要望を聞き出し話し合う。こう考えると、防災も個別の課題ではなく自立に向けた作業の一環であることが見えてきます。地域、他法人との連携にも同じことが言えると思います。

日頃の交流がいざという時の力に成ります。自助・共助・公助の流れを考えながら日々障害当事者の自立に向けた支援を組み立てて行きましょう。



特定非営利活動法人つどい
理事長　原泰夫

つどいサポーター(会員) 募集中 です

つどいは、誰もが障害のあるなしに関わらず、様々な人と関わりながら豊かに生活できる地域社会作りを目指しています。
活動を支えるサポーターとして、共にビジョン実現を目指す仲間になりませんか？ご興味を持たれた方は右記よりお申し込みください！

— 年会費 —
正会員：2,000円/年　法人総会等を通して、運営に参画して頂ける方（議決権有り）
賛助会員：1,000円/年　法人の活動に賛同し、運営を支援して頂ける方（議決権無し）

https://tsudoi.tokyo

つどいウェブサイト
または法人事務局に
ご連絡ください

TEL 070-1392-9524

特集　防災を考える

障害者と、防災への取り組み

大規模災害発生時にも利用者の皆様への適切な対処が出来るよう、行政指導の下、法人として「業務継続計画」（BCP）の整備に取り組んでおります。

法人内各事業所においても、それぞれの事業形態に合わせたBCPの整備が行われていますが、今号では、法人内各事業所の、防災関連の取り組みについてご紹介したいと思います。

当法人では有事の際にも利用者に適切な支援が出来るよう、福祉に関わる法人として、今後も積極的に備えていきたいと思います。

なかまっち

「地域との防災のつながり」

玉川小学校避難所運営訓練の様子

なかまっちでは年に2回防災訓練を行っており、もしもの時に迅速に行動が取れるように避難経路の確認はもちろん、火災通報装置などの設備の使い方も業者の方に教えていただいています。また、訓練を行う中で「ここの広さは車いすが通れるかな」「ここは2名対応でないと難しいよね」など館内の環境を考慮した避難経路や環境を見直す、みんなで考える機会にもなっています。

今年の1回目の訓練は、最近物騒な世の中になっている事などを踏まえて玉川警察署の方に来ていただき防犯について考える機会になりました。

また、なかまっち近隣の玉川小学校にて行われた避難所運営訓練に参加し、地域の防災についても学んできました。

ぽーとたまがわ・なかまっち相談室

「得意の『つながり』作りを、防災の分野でも」

玉川地域版地域ケア会議（拡大）の様子

玉川地域ケア連絡会と玉川エリア自立支援協議会の共催で「玉川地域版地域ケア会議（拡大）」を毎年開催しています。

昨年は「立ててみよう！避難計画」テーマに、地域として何ができるかを、高齢者と障害者双方の支援者が一同に会し話し合いました。

またなかまっち相談室では、避難行動要支援者に対して区が作成する「個別避難計画」を確認するなど有事に備えています。

玉堤つどいの家

「実情に沿った訓練」

全ての災害に対して避難経路の確保は命を守る為にとても重要です。

12名の利用者様の命を最優先に考えた避難経路を確保する為に施設脇のプランターの移動、玄関や非常口には物を置かないといった施設内外の整理整頓を徹底しています。

また避難用ヘルメットを実際に着用して被り心地を確認するなど、実情に沿った防災訓練を実施しています。

車いすが通れるか、しっかり確認

東北沢つどいの家

「日頃からの防災意識を持って」

東北沢つどいの家がある北沢エリアは、世田谷区の中でも火災の危険度が比較的高い地域とされております。当事業所では非常食の試食会や、建物周囲への避難訓練、毛布による簡易担架の実証訓練等、様々な実地訓練を行なっております。

また予備薬や予備食の常備、非常食の備蓄に取り組みつつ、事業所緊急連絡網・緊急時対応マニュアルの改訂等、災害時に慌てないで済む備えの整備に力を入れています。

毛布を利用した、簡易担架体験の様子

きぬた利用者の、地域訓練参加の様子

グループホームきぬた

「きぬたでの『いざ』に備える」

災害はいつ、どのような形で起こるかわかりません。特に、スタッフの人数が限られる夜間に大きな災害が起こった場合、グループホームの人員だけでは、全員の安全を確保するのが非常に困難になります。

そこで、私たちのグループホームは、日頃から地域とのつながりを大切にしています。地域自治会に加入し、お祭りや防災訓練などのイベントにも積極的に参加・協力することで、地域の方々に私たちの活動を知っていただいています。

この地域とのつながりこそが、災害時に大きな力となると考えています。交流を深めることで、困った時にはお互いに助け合えるような関係を築きたいと願っています。

職員インタビュー

この人達が、つどいのセンター！

今号でも引き続きこのコーナーでは、各事業所の現場リーダーとして、日々、利用者支援と若手職員の育成に励まれている。職員経験豊かな皆さんを紹介したいと思います。

長年に亘って当法人を支えて下さっているお二方、いつもお疲れ様です！

亀田　卓 さん

玉堤つどいの家

副施設長

座右の銘　思い立ったが吉日

Q.支援で大切にしていることは？

A.

日々アンテナを張って、物事について感じ取る力を鋭くしながら情報収集を行い、直観力（ひらめき）や洞察力を磨いています。

また、いかなる時でも物腰が柔らかい『イケオジ』を目指しています。

村岡　康子 さん

ぽーとたまがわ・なかまっち相談室

なかまっち相談室　管理者

座右の銘　吾唯足知

Q.支援で大切にしていることは？

A.

“気づき”と“聴く”を大切にしています。

『思い込みのメガネ』をかけていないかな？と気づき、時に立ち止まって、視点を変えて見てみることを心がけています。

そして、利用者さんが自分の意志を表明し、選択決定していけるよう、ご本人の思いを聴く力と感性を磨いていきたいと思っています。